

平成30年度 嘉穂小学校 学校評価報告書

**【学校の教育目標】**  
 確かな学力を身につけ、美しい心を持ち、  
 活力ある子どもの育成

**【本年度の重点目標】**  
 ○自分の考えを適切に表現できる子どもを育成する。  
 ○自分から進んで誰にでも元気な挨拶ができる児童を育成する。  
 ○自分の目標実現に向けて、粘り強く取り組む児童を育成する。

4：大変よい    3：よい    2：努力を要する    1：すぐに改善

領域	項目	評価指標・自己評価	教師	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策
確かな学力を身につけた子どもの育成	自ら学ぶ子ども	<b>【わかる授業づくり(個に応じた指導)】</b> 国語、算数の学期末テスト85点以上 〈結果〉国語平均88.9点、算数平均88.2点 ・各単元テスト・学期末テストの結果70点以下の児童に対しては、補充を行うなど学力の確実な定着を図る取組を行った。 ・算数科学習において全学級複数体制による指導を行った。 ⇒目標を達成することができた。	2.9	○ 授業改善の研究とともに補助教員の配置や習熟度別学習の工夫などによって、全体のレベルアップができています。 ○ 学期末テスト結果が目標得点を超えていることに、先生方の指導の熱意が滲み出ている。補充学習等の成果だと思う。 ◆ 個に徹した指導を、限られた時間内にどうするか。校内研修で遠慮のない研究をがんばってほしい。 ◆ 学力の定着が足りない児童には、限られた時間を有効に活用して、今後も補充の工夫が大切だと思う。 ◆ 目標を更に高く設定してはどうか。(国語90点以上・算数95点以上) ◆ 学力の二極化をさせない小中連携を。	◇ 主題研修(算数科学習についての校内研究)での内容を日常の授業に生かしながら、授業改善を進める。 ◇ 個に対応するための授業形態をさらに工夫する。(ex.習熟度別分割授業の工夫) ◇ 目標値について改めて検討するとともに、授業改善の具体像を明確化し、共通実践の推進を図る。
		<b>【自分の考えを適切に表現する】</b> 自分の考えを適切に発表することができる 〈結果〉84.6% (教師:50.0%) ・全学年での「発表名人になろう」の取組により、系統的に発表の仕方を指導している。 ⇒進んで発表する児童が増えてきている。 自分の考えを適切に分かりやすく伝えることは十分ではない。	2.5	○ どの学年も積極的に発表しており、児童の意欲も感じられる。 ○ 取組に対し一定の成果は出ていると思う。現代社会においては成果が上がりにくい課題ではないかと思うが、重要な学力だと思うので、継続して重点目標として取り組んでほしい。 ○ テレビや板書など色々と工夫されていて、敬意を表する。 ● 結果において児童と教師の差が大きいのはなぜか。 ◆ 学習を進める上でのモチベーションは大事。ワンパターンにならないように留意してほしい。 ◆ 適切に分かりやすく伝えることができていない点は、要点整理の仕方がまだ十分理解できていないのではないかな。適切な説明の要点を今一度細やかに指導することが大切だと思う。 ◆ 一生懸命調べてまとめを発表していると思われるが、「井の中の蛙」となっていないか。『図書館を使った調べる学習コンクール』(図書館振興財団)などに応募して経験を積むことで、より成果が出るのではないかな。 ◆ 中学校でもこの力の不足を感じている。9年間の学びの姿を見える化していく必要を感じる。	◇ 自分の考えをノートにまとめさせたものをもとに発表することを習慣化する。 ◇ ペア(隣同士)での交流等の段階から、自分の考えを適切に・分かりやすく説明しようとする意識を持たせる。 ◇ 「自分の考えを適切に表現する」の具体像を明確にし、発達段階に応じたスキルの系統化と児童・教員双方での共有を図る。 ◇ 「考えを伝え合う」ことに対する意欲付けを図るとともに、定着に向けた方策の日常化を図る。
		<b>【読書活動の推進】</b> 低：80冊、中：3,000p、高：5,000p 以上 〈結果〉全校平均63冊(※2学期末) ・毎月ボランティアによる読み聞かせを実施。 ・「読書祭り」では各学級の読書の記録を掲示し、意欲付けを図った。 ⇒各学年の平均は目標を達成している(見込)が、個別には読書習慣の二極化も見られる。	2.9	○ 様々な取組で児童の読書意欲が高まっていることを感じる。 ○ たいへんすばらしい取組をされている。今後は楽しみ。 ● 読むことは国語にとって基本的なこと。“読書百遍意不ずから通ず”と昔から言う。読書の習慣を身につける努力は本当に大切。 ◆ 名文の暗唱などに取り組んではどうか。 ◆ 図書委員を積極的に活用し、全校児童の前で絵本や本のおもしろさ・すばらしさを伝えることができればよいと思う。 ◆ 図書館の明るく楽しい雰囲気、いろいろなジャンルの本、新しい本に出合うことで、読書週間の二極化も解消に向かうのではないかな。	◇ 図書委員会の活動を生かした取り組み(児童によるブックトーク等)の充実を図る。 ◇ 家庭学習(週末課題)とも連携し、各家庭での読書の習慣を身につけさせる。 また、「うちどく」など、家庭とも連携した取組を工夫する。 ◇ 学校図書館の更なる充実を図るとともに、日常的な読書活動推進のための方策の再検討を図る。

	<p><b>【家庭学習の習慣化】</b>  家庭学習：(10分×学年+10分)以上  ※土日：20分以上(含10分間読書)</p> <p><b>〈結果〉 平日:96% 土日:83%</b>  ・具体例を「家庭学習のてびき」や「通信」等で紹介することを通して、家庭学習の啓発を行った。  ⇒平日の目標の時間を達成できている児童は増えたが、土日は8割強にとどまっている。</p>	2.8	<p>○ 先生方と家庭との連携で、家庭学習が定着してきていると感じる。自主学習の取組を『ぐんぐん』で保護者に紹介したり具体的な内容が功を奏していると思う。</p> <p>◆ 宿題が無くとも毎日机に向かう習慣がつけばすごい事です。学年相応の個性に応じて内容と量は決まると思うが、保護者との懇談会で話し合う大事な議題だと思う。</p> <p>◆ 家庭学習をさせられる感からの脱却に向けて、小中の指導方法工夫改善教員の連携を強化する必要がある。</p>	<p>◇ 家庭学習についての学校としての考えをさらに明確にし、方法等の共通の指導を継続・強化していく。</p> <p>◇ 土日の宿題の内容・量の工夫を図る。</p> <p>◇ 家庭との連携を通して、家庭学習の更なる習慣化を図る。</p> <p>◇ 個に応じた学習内容(課題)の検討・実施を図る。</p>
<p><b>総合所見</b>  学力の育成に関しては、現在の喫緊の課題であり、児童実態や学習内容に応じた指導ができるように、複数指導体制等これまで取り組んできた実践を見直し、授業改善を中心に効果的な指導のあり方の検討・実施を推進する。</p>				

領域	項目	評価指標・自己評価	教師	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策			
美しい心を持つ子どもの育成	思いやりのある子ども	<b>【挨拶の励行】</b> すすんで挨拶をする	2.4	○ 登下校時の子どもたちの元気よい挨拶に、心が和む。大人から積極的に声をかけることを、心がけている。 ● 児童と教師の結果の差。 ◆ 家族間の挨拶や地域の方と出会う機会が減少している現代だが、社会人として働くときには人間関係を築いていく上で一番大切な力。継続して重点的に取り組んでいくべき課題。 ◆ 学童などで児童と会っても児童から挨拶を受けることはほとんどない。児童自らが挨拶すると心地良いことを感じる事が無いからではないか。まずは朝の挨拶、友達・送迎バスの運転手さん・見守りの方・先生方等へと強化して取り組んでみてはどうか。 ◆ 家庭での挨拶(おはようございます・ただいま・おやすみなさい等)の励行を徹底するよう、家庭との連携が求められる。 ◆ PTAへの家庭教育の充実のPR等 ◆ 嘉穂小・牛隈小・嘉穂中でのあいさつ教科週間等の共通した取組の推進が必要。	◇ 取組を行っている期間やその場だけでなく、日常的に挨拶が交わされるように、挨拶することのよさを感じさせたり、意識付けたりする実践(道徳等)を充実させる。 ◇ これまでの各取組を見直し、児童主体の取組となるような工夫を行う。 ◇ 家庭とも連携し、児童の心的状況の把握やケアといった日常的な取組とも関連を図る。 ◇ 客観的な実態の把握し、児童・教員双方による課題意識の共有を図る。 ◇ 家庭に対する積極的な啓発と更なる連携の強化のための方策の検討・実施の推進を図る。			
		<b>〈結果〉児童:92.1% (教師:44.4%)</b> ・児童会活動・PTA活動でも挨拶運動を行い、児童・学校・保護者で取組を行った。 ⇒挨拶運動の場では挨拶をする児童が多いが、それ以外の場面ではできなかつたり声が小さかつたりする等の実態がある。児童の自己評価と教員の評価とのずれも見られ、習慣づいているとは言えない。						
		<b>【言語環境づくり】</b> 丁寧な言葉遣い、やさしい言葉かけができる				2.6	○ 日常的な先生方のご指導のお蔭で児童は伸び伸びと生活しているように思う。相手を思いやる心が育つように、今まで通り実践されるとよいと思う。 ◆ 嘉穂の子どもたちは「まじめでおとなしい」とよく耳にするので、道徳科の指導においては一方的・画一的な指導にならないような配慮が必要だと思う。 ◆ 家庭での言葉遣い・しつけが重要。PTAと連携強化することが求められる。 ◆ 中学校でも声かけや友達を思うやりとり(言葉や行動)が課題。9年間の成長(あるべき姿)の設定が必要。 ● 児童数が減り接触する機会が少ない。怪しまれないように、大人の方でことばや動作については気遣っている。	◇ よりよい人間関係づくりや円滑なコミュニケーションのあり方の最重要のものとして、職員間の共通理解(含教師自身の反省)を深め、日常的に指導の徹底を図る。 ◇ 道徳科・学級活動との関連を更に図るとともに、集団作りの取組と関連させながら、実践化を促す取組の工夫を図る。 ◇ 家庭に対する積極的な啓発やPTA等との連携の強化を図り、学校・家庭・地域での環境づくりを推進する。
		<b>〈結果〉児童:96.4% (教師:61.6%)</b> ・道徳科や学級活動との関連を図りながら、適切な言葉遣い(フワフワ言葉・チクチク言葉等)について日常的に指導を行った。 ⇒困っている友だちや下級生に対して、やさしい言葉かけをしている児童の姿が見られた。しかしその一方で、依然、人を傷つける言葉を使ってしまう児童も見られる。						
		<b>【良好な人間関係づくり(不登校防止)】</b> 友だちと仲良くし、学校生活を楽しむ	2.8	○ 「学校が楽しい」97.1%、不登校児0名は、とてもすばらしい学校ということがわかる。先生方の日々の実践の成果だと思う。 ● 不登校兆候児8名が気になる。家庭との連絡が密にされるのが先決なので、対応には特別留意されていると思う。善処を期待する。 ◆ 児童が学校での生活を楽しい・楽しくないと感じる細かな内容について分析し、対応するなど日頃の取組が、「学校が楽しい」子が多く、保護者の信頼が厚いことにつながっていくと思う。 ◆ 不登校兆候児童生徒についての小中での細やかな情報交換が必要。	◇ 学校で過ごす時間を「楽しい」・「楽しくない」と感じているその細かな内容について分析しながら、本校としての強み・弱みを把握し、学ぶことによる自己の成長を自覚させる取組の充実などを通して、底上げを図っていく。 ◇ 家庭への支援や関係機関との連携を図る。 ◇ 中学校との情報交流を通して、不登校兆候児等への対応の充実を図る。			
<b>〈結果〉「学校が楽しい」:97.1%</b> ・「福岡アクション3」に基づき「マンツーマン方式」による対応を通して、早期発見・早期対応に努めた。 ⇒ほとんどの児童が友だちと仲良く過ごし、学校生活を送ることができている。不登校児童は出ていないが、不登校兆候が8名いる。								
		<b>総合所見</b> 徳育に関しては、学校単独で取り組むのではなく、保護者・家庭との連携を強め、協働で進めていく必要がある。これについては評価委員会の中でも多くのご指摘をいただいているところであり、地域との連携も含め本校教育活動の充実に向けて、取組の再構築を進める際の中核となるものであると考える。						

領域	項目	評価指標・自己評価	教師	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策
活力ある子どもの育成	たくましい子ども	<b>【基本的生活習慣の定着】</b> 「早寝・早起き・朝ご飯」の定着 <b>〈結果〉</b> 毎朝、朝食を食べている児童：97.1% 早寝・早起きしている児童：89.6% ・2学期と3学期の初めに、保護者と連携して「早寝・早起き・朝ご飯・少メディア」の取組を実施した。 ⇒保護者への啓発を行うことができた。	2.7	○ 基本的生活習慣なので、全職員が知っておくことが大切。取組が実施されていることに安堵した。繰り返し粘り強く頑張ってほしい。 ◆ 家庭教育(しつけ・あいさつ・言葉遣い)の大切さをPTAに啓発することが大切。 ◆ 家庭内での生活習慣が要因で早寝ができない様子のため、保護者の意識改革を行うことが重要だと思う。 ◆ 学級懇談会でのテーマにしたり、保護者研修を実施したりしてはどうか。 ◆ 早寝・早起き・朝ご飯とメディアの関連などを、データで保護者に示し、児童や保護者への啓発を続けられたら良いと思う。 ● 今年度の中1は遅刻する生徒が昨年より増えたと感じる。やはりSNS等の対応が必要だと思う。小6のスマホ所持率はどうなっているか？	◇ 就寝時・起床時の様子や、朝食の内容等の実態をより丁寧に把握し、指導の充実を図る。 ◇ 早寝ができていない児童の原因として、テレビやゲームが多く挙がっており、今後、少メディアについての意識付けとの関連を図った指導と保護者への啓発の工夫の必要がある。 ◇ メディアの及ぼす影響やメディアとの付き合い方に付いての研修等を企画・実施し、学校・家庭双方の理解の深化と日常的な働きかけの強化を図る。
		<b>【体力の向上】</b> 定期的なコーディネーショントレーニングの実施 体力アップシート：2000点 <b>〈結果〉</b> 体力アップシート2000点：69.4%(*2学期末) ・全学年が体育の時間にコーディネーショントレーニングに取り組み、体力の向上を図った(低:月1回高:学期2回)。毎月25日の「にこにこの日」にも全校一斉のトレーニングタイムを設定した。 ・体力アップシートを活用し、外遊びを奨励した。 ⇒休み時間等に外で遊ぶ児童が多い。	2.7	○ 児童が生き生きと取り組んでいてうれしかった。運動会などで保護者にも紹介されてはどうか。 ◆ たいへん素晴らしい取組をされているが、その取組が日常的に生かされているか疑問。昼休みなどを利用して毎日5～10分でも全員で取り組める運動をしてはどうか。(「運動場〇周を△日走ったら地球一周」のような目標設定等) ◆ 休み時間は子どもたちの楽しい時間なので、極力机から解放してやることは気分転換になる。 ◆ 夏場など、裸足で走り廻ることはどうか。 ◆ 朝の時間を使ってのコーディネーショントレーニングを中学校でも来年度より実施し、つなげていきたいと考えている。	◇ 職員の共通理解を深め、現在行っている取組の徹底を図ったり、その実施方法を工夫したりして、児童がより自発的・積極的に取り組もうとする運動機会を設定する。 ◇ コーディネーショントレーニングのさらなる日常化を進める。 ◇ 全校でのコーディネーショントレーニングタイムの実施方法等の見直しを図り、より日常的なあり方を検討する。
		<b>【規範意識の育成】</b> ルールを守って、学校生活を送る <b>〈結果〉</b> 児童：91.4% (教師：38.9%) ・「学校(嘉穂小)のきまり」を各教室に提示し、日常的な意識化を図った。 ・児童会が中心になり、廊下の歩行の仕方の点検を行った。 ⇒大きなトラブルや生活指導は少ない。 重大ないじめや暴力等は生じていない。	2.3	○ 教室や廊下、トイレなどがピカピカなので感心している。「学校のきまり」学年・学級の「めあて」が徹底されている証拠。全職員のご努力のおかげだと思う。 ● 教師と児童の認識の違いが非常に大きいことが気になる。 ◆ 先生方がどういう点を問題視されているのか具体的な内容を把握すると改善点が明確になってくるのではないかな。 ◆ 校区部会で、「学校のきまり」の共有を図りたい。	◇ 道徳や学級活動との関連を図り、ルールの大切さや、それらを守ることの必要性、守ったときの心地よさを捉えさせる。 ◇ 「学校のきまり」の見直しと、きまりの励行を通して目指す児童の姿の明確化と、児童・教員での共有を図るとともに、計画的な取組の推進を図る。
		<b>総合所見</b> 本項目に関しても、保護者・家庭の協力なくしては、成果は難しい。連携を強め、協働を進めていく必要がある。これについても評価委員会の中でご指摘をいただいているところであり、地域との連携の充実を図らなければならない。			

領域	項目	評価指標・自己評価	教師	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策
郷土愛	ふるさとを愛する子ども	<b>【地域に愛着をもつ児童の育成】</b> 自分がすんでいる「かほ」がすき	2.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 校外外で地域の教材をよく掘り起こして、児童の郷土への思いを育む実践がよくされていると思います。(学習参観時の獅子舞、一畝堀等々)</li> <li>○ 学校を愛することは「ひと・もの・こと」を愛し、私達の故郷を愛し、ひいては国を愛することだと信じている。</li> <li>● 先生方も、もっと地域のことを学習してほしい。</li> <li>◆ 旧嘉穂町は色々な伝統文化を守る中で地域の老若男女がとても仲が良く協力体制やあたたかい人間関係が構築されている。そういうあたたかい人間関係のすばらしさを学習に取り入れれば、もっと好きになってもらえるのではないかと。</li> <li>◆ 行政(社会教育・産業振興課・企画調整課)とタイアップし、資料・パンフの提供、学芸員の授業などに積極的に取り組めば、学習活動が広がり、郷土についてより詳しく学習できると思う。</li> <li>◆ たくさんの協力者がいるこの嘉穂地区の人材を連携して活用できるよう、中学校でも頑張ります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 現在の学習の教材研究をさらに深めるとともに、新たな地域教材の掘り起こしを行い、地域のもつよさや特徴について知ったり気付いたりする学習活動の学習課程への位置づけと充実を図る。</li> <li>◇ 地域の「ひと・もの・こと」等について更なる情報収集・整理を行い、地域に根ざした事物の新たな教材化を進める。</li> <li>◇ 地域の方や行政との更なる連携強化を図る。</li> </ul>
		<b>〈結果〉児童:97.1%</b> ・校外学習で地域に出かけたり、G Tとして地域の方を招いて学習を行ったりした。 ⇒全学年で地域の「ひと・もの・こと」と取り入れた学習活動を実践することができた。			
		<b>総合所見</b> 旧5校の統合から5年が経ち、各取組の目標(取組を通して目指す児童の姿)や方策(内容・時期等)について改めて見直しを図る必要がある。学校関係者評価委員会よりご指摘いただいた点を踏まえ、より地域との交流を充実させながら、来年度も地域からも信頼される学校づくりを進めていきたい。			